

## 第8回外洋加盟団体長会議 議事録

日時 : 平成30年1月21日(日) 9:30~13:40

場所 : 岸記念体育館 505 会議室

出席者 : (理事)

植松副会長、坂谷定生常務、馬場益弘、菊池邦仁、宇都光伸、大島茂樹、平松隆、中澤信夫、

(加盟団体)

津軽海峡会長 木浪英喜、津軽海峡副会長 石川彰、

いわき会長(理事兼) 菊池邦仁、東京湾会長 足立利男、

東京湾事務局長 望月規矩雄、三崎会長 新田肇、三崎事務局長 中里英一、

三浦事務局長代理 北川隆、湘南副会長 浪川宏、

湘南事務局長 作田智恵子、東海会長(理事兼) 坂谷定生、

内海事務局長 猪上忠彦、内海事務局長代理 北中育子、

西内海副会長 金井寿雄、玄海会長 沼田浩行、

南九州会長(理事兼) 宇都光伸、

(委員会)

外洋計測委員会委員長 吉田豊、ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、

キールボート強化委員長(理事兼) 中澤信夫、

(事務局)

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

J S A F 事務局次長 寺澤寿一

(オブザーバー)

橘田佳音利

(順不同、敬称略) 合計26名

### I. 挨拶

植松 : 今年度は理事改選の年です。

今までは、選挙理事は男3人が立候補していましたが、今年は男性3人、女性2人が立候補するので宜しくお願いします。

外洋も安定してきたと思うので、次を考える時が来たと考えますので活発な意見を宜しくお願いします。

### II. 議事

#### 1. JSAF 理事選挙日程及び外洋艇推進グループ推薦候補者の選考について

坂谷 : 理事選出の日程が配布資料に載っています。

これに沿って、いろいろ決めていきたい。

1月22日に立候補者の推薦開始、2月23日が立候補の締切りとなる。

3月1日に団体の代表者に投票の依頼をし、3月16日に投票締切りとなる。

各加盟団体は基本的には2票だが、3つの団体が3票持っている。

以上が選挙手続きである。

坂谷、平松、中澤が選挙に立候補する。

植松：今回で副会長を退任するが、副会長と常務の両方が退任すると混乱すると思われるので、再度坂谷さんに常務理事に立候補をお願いした。

女性理事候補枠に作田さんと、橋田さんの立候補をお願いしたい。

選挙理事の定数は男8人、女3人の計11人であるが、男7人女4人であっても選挙になる。

植松：立候補する方は積極的に集票運動をして頂きたい。

## 2. 平成30年度外洋艇推進グループ委員会別事業計画、収支予算について

坂谷：事業計画と収支予算が資料に記載されている。

外洋常任委員会の事業計画は、1、2、3は29年度と同様だが、4を付け加えた。

予算は収入710万円であるが29年度は約2,100万円であった。

これはNYYCがあったためである。30年度はこれがないので収支は大きく変わっている。

吉田：ORCの収支が赤字となっているがバランスを取っていきたい。

坂谷：外洋安全委員会は予算的に変わっていない。

アメリカズカップ委員会も同様である。

## 3. ジャパンカップ委員会の設置と今後の進め方について

坂谷：3年前にJSAF主催にして、東海、関西、関東と3回やったが、今後3年間は固定してやってみたいと考えた。

J系においてJSAF主催という中に国体があるが、これは国体委員会が中心となっており、ジャパンカップもそれと同様な形にすべくジャパンカップ委員会を設置してここを中心に推進していきたい。

JSAF組織内の位置づけは、組織図のように外洋艇推進グループに入る。

外洋艇推進グループが所管する事項が資料に記載されているが、(25)のジャパンカップ委員会を付け加える。

開催基準は、2018年以後の3カ年は東海地区で開催する。

開催期間は11月の第1週とする。インカレとぶつかるが、海面を調整すれば問題がないと考えるので調整する。

初めからクラス分けをし、分け方は委員会で検討して公示で発表する。

案内は5月、公示は6月、受付は7月とする。

参加艇が10艇未満であれば開催を見送る。これは今までと変わっていない。

ジャパンカップの趣意書には今説明したことを記載してある。

委員長には植松副会長にお願いしたい。

委員は植松委員長を中心にして決めて頂きたい。

平松：各クラスの成立条件の質問が昨日あった。

植松：2艇以上であれば全て受け付けたい。

坂谷：公示までにクラス分けを決める。

#### 4. オリンピックショーケースイベントについて

植松：資料の通りだが良いところまで来ていると感じている。

3月にWSのハントが来日するので、それまでには動くことはなく、その時点で決定する。

猪上：50年前の東京オリンピックの時にも外洋レース開催の計画があったが、中止となった。これらを踏まえて進めて頂きたい。

植松：そのことは承知している。2024年のフランスでのオリンピックにオフショアレースは採用される予定なので、是非やりたい。

馬場：開催が決まったら植松さんに責任者になってもらいたい。

#### 5. オリンピック応援フラッグリレーに係る経過と今後の進め方について

菊池：東京オリンピック2020の参画を受けた。

フラッグは昨年小笠原をスタートして現在室蘭にある。

今年は室蘭から日本海を運ぶ予定だが日本海は外洋が弱いので、県連の協力を受けながら進めたい。

7月にタモリカップが富山であるので、それまでに富山まで進めたい。

フラッグは一つではなくいくつかある。

日本海から九州に進め、レース等を利用して受け渡しを行って行きたい。

坂谷：2020年の7月までには江ノ島に入れたい。

江ノ島には沖縄—東海レースとパールレースで運びたい。

沼田：3月に九州ヨット協会の集まりが沖縄であるが、そのときに来年5月に新天皇陛下の即位に合わせてレースを行う計画が話し合われる。

坂谷：本事業は菊池理事と大村事務局長が中心となって進めていくので、団体の協力をお願いしたい。

金井：西内海ではこの会議の後に会議を予定しているのでそのときに決めていく。

大村：資料にあるのはヨットに掲げる旗と、サインをしてもらう旗との2種類である。

サインしてもらう旗は、サインが多く現在2枚目となっている。

#### 6. ライフジャケットの義務化とJSAFの対応について

大村：2月から桜マーク付きのライフジャケット着用の義務が始まる。

資料の表に対象除外の内容が記載されている。

この表は海上保安庁にも流れているので、この件に関して何かあったら連絡してもらいたい。

沼田：福岡でレースをやっているが、どのようになるのか。

大村：RRS、外洋特別規程を採用して行っていれば良い。

平成34年までは罰則は無いとの事である。

新田：この表を会員に配布しても良いか。

大村：ホームページにも載っている。問題ない。

作田：湘南ではすでに配布済みです。

法律で決まったことなのでNoRには記載しない。

会員には直接国の関係機関に問い合わせているものがあるが、対応がまちまちのようで、それについてはコメントせず、JSAFより通知のあった内容に基づき決まったことのみを伝えるようにしている。

浪川：救命胴衣の規則の現状はおかしい。艇側が混乱する。

このような状態を正してゆくのが我々連盟の使命ではないか。

足立：世界的にはどうなっているか。

坂谷：ルールなのでその国で対応している。

## 7. 外洋専門委員会報告

吉田：外洋計測委員会の事行計画に、6のセールメジャラー部会が載っているが部会は廃止され、部員は各委員会に参加することとなった。

IRCの実績は資料のとおり、2017年は348枚の証書を発行した。

ORCCの証書発行は、2017年は45艇、ORCC-Iは5艇である。

ORCは関東、内海、沖縄の3地区で利用されている。

各地区には積極的に出向いて協力をしたい。

沖縄においては出向いて証書を発行していきたい。

世界的には、ORCが約1万隻、IRCは少し減少して約5,000隻となっている。

今年、オランダのハーグで世界選手権を行うが、今まではORCのみであったがORC-IとIRCエンドースの両方のクラスを使用し、それぞれのクラスで成績を出して総合成績も出すことになっている。

計測委員会の中で、ORCとIRCの両方を採用するとフリートが分散してしまうので日本のレーティングをIRCに統一してもらいたいとの意見があったが、レーティング採用の判断をするのは外洋常任委員会であることを説明して了解もらった。

JSAFの委員長は3期6年と運用規則で決まっているので、次期委員長は外洋計測委員の八木氏が引き継ぐ。

植松：ハーグのレースはチャーター艇もあるので、是非参加を検討してもらいたい。

NYYCでも小型艇でのレースを開催する。艇はNYYCで準備し費用もあまりかからないので、是非若いセーラーに参加してもらいたい。

8. 今後の会議日程について

坂谷：資料の表のとおり理事選投票開始は3月1日、水域推薦締切りは4月3日ある。

2018年の団体長会議は9月29日に広島で行いたいので宜しくお願いする。

9. その他

金井：沖縄ー東京レースに関する事で西内海にできることは何か。

坂谷：JSAFに迷惑がかかるのであれば除名できるかJSAF顧問弁護士に相談するなどして検討したい。

植松：会員でなくても行動を続けると思うので、無視するしか手がないと思う。

坂谷：他に報告があればいて頂きたい。

新田：昨年小笠原レースを開催したところ10艇余りが完走した。

当初続けての開催は考えていなかったが、小笠原島の関係者等から続けての開催の希望があるので、2019年の春に開催する予定である。

そのため今年3月のポートショーの時に説明会開催する予定。

また、久しく開催されていなかったグアムレースを再開したいと考えている。

現地の泊地対策がポイントになると思うので情報及び人脈があれば紹介してもらいたい。

坂谷：新任の会長に挨拶をお願いします。

木浪：昨年の青函レースではロシアから6艇、国内からは26艇の参加があった。

沼田：昔グアムにはいったことがあるので、グアムレースの件については調べてみる。

玄海ヨットクラブの活動はアリランレースのみになっていたもので、特別加盟団体である福岡ヨットクラブが引き継いだ。今年体制を整えたいので宜しくお願いします。

菊池：2月2日、3日に、いわきで合同委員会を開催する。準備をしてお待ちしています。

吉田：合同委員会の3日（日）の午後二 ORC の成績計算方法の解説をする予定。

レース委員会関係者には是非参加してもらいたい。

猪上：水域推薦理事の員数と、会員数、に加えて水域の広さも加味してさらに水域の区割りも含めて含めて理事の数を調整できないか。

内海、西内海、近畿北陸水域の区割りが当事者の了承を経ないでいつの間にか修正されたこともありますから、動かさないことは無い。

坂谷：これは外洋だけで決められないので難しい。

以上。

議事録署名人 中澤 信夫  
沼田 浩行